

決算に合わせて開示する高速道路事業関連情報（平成 28 年度）のポイント

1. 財務諸表における債務残高の推移

- 平成 28 年度期首の債務残高は、28 兆 8,153 億円でしたが、期中に 7,429 億円の債務を引き受け、2 兆 8,517 億円の返済及び 1 兆 1,560 億円の資金調達を行った結果、期末（平成 29 年 3 月 31 日）の債務残高は、27 兆 8,704 億円となりました。

【本文 P1 参照】

平成 28 年度の債務残高の推移

		平成 28 年度	(参考) 平成 27 年度
期首債務残高	A	28 兆 8,153 億円	29 兆 3,925 億円
債務引受額	B	7,429 億円	1 兆 0,981 億円
債務返済額	C	2 兆 8,517 億円	3 兆 3,050 億円
資金調達額	D	1 兆 1,560 億円	1 兆 6,210 億円
債券発行差額償却による簿価増	E	80 億円	86 億円
期末債務残高	A + B - C + D + E	27 兆 8,704 億円	28 兆 8,153 億円

注 1) 資本金及び道路承継未払金（平成 27 年度末 507 億円、平成 28 年度末 881 億円）を含んでいません。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

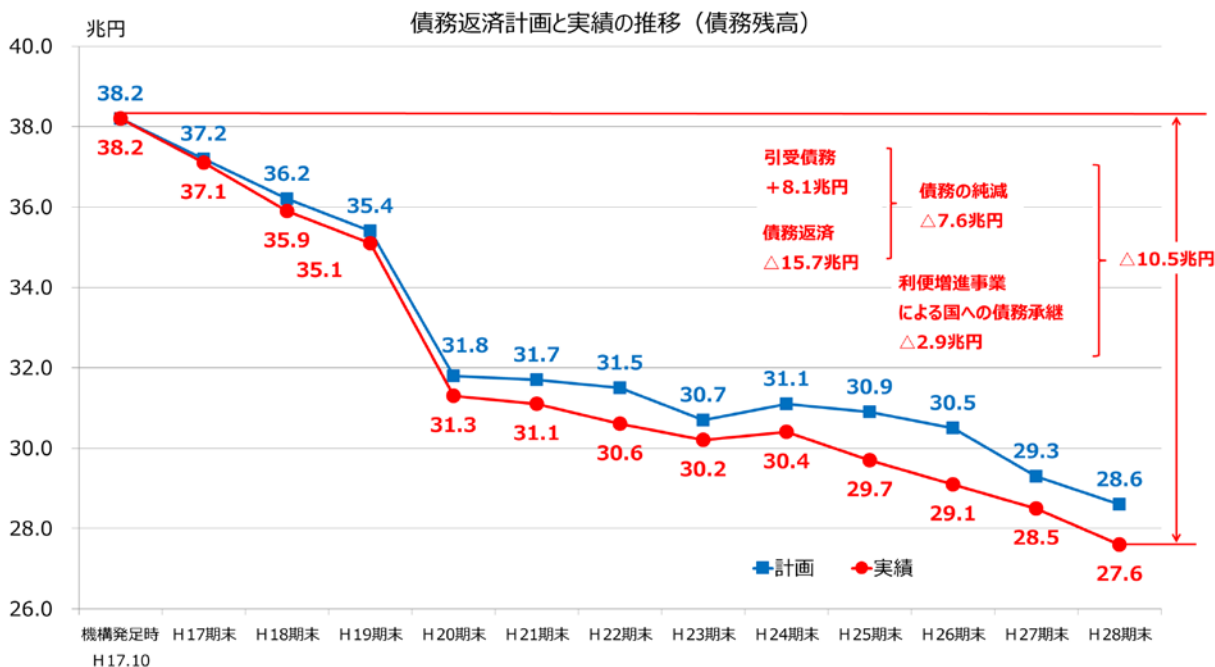
2. 資金調達の状況

- 平成 28 年度資金調達実績は、1 兆 1,560 億円（政府保証債 9,560 億円、財投機関債 2,000 億円）。
- 今後の金利上昇リスクを軽減し債務返済の確実性を高める観点から、低金利環境を捉えて超長期年限での調達拡充を目指しました。
- 積極的な I R 活動により幅広い投資家の需要を喚起する一方、変化の激しい政治・金融情勢に応じて機動的かつ弾力的な調達を行いました。また、財投機関債で初となる 40 年利子一括払債（元本償還時に利子を一括で支払うもの）を発行するなど、調達の多様化を行いました。
- 上記取り組みの結果、有利子債務の平均利率は、期末時点で 1.28% まで低下。

【本文 P2 参照】

3. 債務返済計画と実績の推移

○ 機構発足時からの債務返済計画と実績の推移は以下のとおりです。



※ 債務返済計画では、決算と数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には決算数値を債務返済計画ベースに修正した数値を用いています。例えば、債務残高を計算する際には、現金、未収金・未払金の扱いが異なります。また、個別項目においても、消費税、減価償却費の扱いなどが異なります。

4. 平成 28 年度における債務返済計画と実績の対比

- 特定更新等工事に係る債務を除くその他の債務について、債務返済計画ベースの平成 28 年度期首債務残高は 28 兆 5,044 億円でした。平成 28 年度は、収支差 1 兆 6,561 億円、会社からの引受け債務 7,544 億円の結果、平成 29 年度期首債務残高は 27 兆 6,027 億円となり、平成 28 年度期首に比べ 9,017 億円減少し、計画に対しては 8,452 億円下回りました。
- 特定更新等工事に係る債務について、債務返済計画ベースの平成 28 年度期首債務残高は 37 億円でした。平成 28 年度は、会社からの引受け債務 258 億円、債務返済開始前の引受け債務に係る消費税相当額が△19 億円となったことから、平成 29 年度期首債務残高は 276 億円となり、計画に対しては 1,661 億円下回りました。
- 平成 29 年度期首債務残高の総額は 27 兆 6,303 億円となり、計画に対しては 1 兆 113 億円下回りました。

【本文 P4～5 参照】

5. その他

平成 28 年度の高速度路会社別・路線別営業収支差は本文 P10～11 等をご参照ください。